

開講科目名 / Course	基礎看護援助技術演習	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 3 学期 / Third	
開講区分 / semester offered	3 学期 / Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	石丸 智子	
担当教員名 / Instructor	石丸 智子、徳丸 由布子、篠原 彩、内倉 佑介、堤 恒貴、大矢 七瀬、井上 陽士、外池 桃子、高木 優衣、堀 裕子	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	演習	
授業回数	15	
科目の目的と概要	本科目は、学生が看護技術に関する自らの課題に主体的に取り組み、自己研鑽しながら看護技術の定着と向上を図ることを目的としている。日常生活援助技術を中心に学生自身が強化したい看護技術を含む事例課題を選択し、課題に基づいた看護技術展開を繰り返し実施、評価しながら身に付けていく。	
到達目標	1. 看護技術に関する自らの課題について、看護技術を実施できる。	
DPとの対応	3.看護の基盤となる専門知識・技能	
授業計画	<p>授業は原則2コマ続きで実施する</p> <p>01. オリエンテーション、課題事例の決定、活動計画立案</p> <p>02-03. 個人で課題事例について看護過程の展開を検討する</p> <p>04-05. グループワークを行い、課題事例の看護展開を検討する</p> <p>06-07. グループで実技練習を行う</p> <p>08-09. 課題事例の看護技術を展開している場面を撮影する</p> <p>10-11. 撮影した動画を担当教員に提出し、担当教員から指導を受ける</p> <p>12-13. 担当教員から指導を受けた内容を検討し、修正しながら再度実技練習を行う</p> <p>14-15. 看護技術を展開している場面について担当教員と最終確認を行う</p>	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生個人の課題に基づいて、事例課題を選択し、取り組むことができる。 ・ 学生個人で技術展開到達度を設定できる。 ・ 学生個人の計画に合わせて授業時間を活用できる。 ・ 学生の希望に応じて技術展開について教員から指導を受けることができる。 ・ 出席確認はwebを利用する。 ・ 課題事例に関する看護技術展開の映像を各自録画記録する。これにより、技術展開の向上の程度や課題の発見など自己・他者評価を客観的に行うことができる。 	
時間外学修	<p>事前学修：各自が所有するテキストやe-ラーニング（Nursing Skills）などを用いて、課題事例に関連する知識や技術について自己学習する（3h）。</p> <p>事後学修：演習後にその振り返りを行う。必要に応じて各自撮影録画した資料を活用する。（9h）</p> <p>* 課題事例の実施期間は、基礎・成老年実習室を開放する。但し、土曜・日曜は原則として使用できない。</p>	
評価方法と評価割合	<p>評価は演習態度（ワークノートの提出状況および記載内容）50%、最終課題の提出50%で行う。</p> <p>原則100%出席とし、遅刻、欠席は減点対象とする。20分以内の遅れは遅刻とし、超える場合は欠席として取り扱う。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。期限までに課題提出がない場合には単位認定不可とする。</p>	
テキスト	なし	
参考書	なし	
履修する上で必要な要件	なし	
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	<p>石丸智子：病院の看護師</p> <p>徳丸由布子：病院の助産師</p> <p>高木優衣：保健師</p> <p>その他、看護系教員8名程度が指導担当：全員が看護師経験を有する。</p>

教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	<p>豊かな看護実践力を活かして、看護技術の原理や科学性の理解を促進させる。 対象に対して安全で安楽な技術の展開を考える示唆を与えながら支援する。</p>	